

ソーシャルクリニックは どのように地域に貢献できたか

北海道教育大学函館校 キャンパス長
五十嵐 靖夫

皆様におかれましては、日頃より函館校の教育研究活動並びに地域協働事業にご理解とご支援を賜りまして、ありがとうございます。

さて、私たちの北海道教育大学は、札幌、旭川、釧路、函館、岩見沢に5つのキャンパスを有し、函館校においては「国際地域学科」として、国際的視野と教育マインドを持って地域づくりに寄与する人材の育成に取り組んでおります。函館校ではその中核的な部署として「地域協働推進センター」を位置づけております。

地域の課題を適切に捉え、解決策を検討し、解決へ向けて試行・実践する一連のプロセスを地域と大学との協働によって取り組んでいく「ソーシャルクリニック(SC)」では、これまで江差町、知内町、函館市をはじめとする道南の各地域において、さまざまな活動を展開してまいりました。また、3年前から開始した「SC巡回型サテライト・オフィス事業(巡回SC)」では、昨年度までに道南のすべての市町と、各地域の課題について情報交換の機会を持つことができ、2巡目となった今年度は観光と教育の話題に焦点化し、地域と大学との協働の可能性について意見交換を始めたところであります。

さて、このように種々取り組みを進めてきたSCは、果たしてどのように地域に貢献できたのでしょうか。昨年度森町と締結した雇用支援に関する連携協定をもとに始まった「地域づくり支援実習」は、今年度で2年目を迎えました。今夏も2週間にわたって、5名の学生が森町内に滞在し、関係人口の増加を切り口に森町の魅力発信について実習しました。後日、森町で開催した巡回SCでは、実習した学生たちの若者目線の気づきや提案を、より広く町民にも知らせてほしいとのお声を地域住民からいただきました。地域づくりに対する学生たちへの強い期待を実感させられました。

SCが地域に貢献できているかと問われれば、未だ試行錯誤の途上にあり、道半ばです。しかし私たちは、SCを通じて学生たちが地域課題に寄り添うことで、地域に活力をもたらすことを目の当たりにしています。また、道南の多くの地域で、地域の課題解決に取り組む新しい世代の若者たちの活躍にも接してきました。こうしたいわば「地域のイノベーター」たちに、これからも多様な活躍の舞台をつくっていきたいと思います。また、このことが地域の学校や教員に新しい風を吹きこむことにもなると考えます。

今後とも、函館校地域協働推進センターの活動とソーシャルクリニック事業をより発展させることで、地域の未来を共に考え、地域の諸課題の解決に取り組んでまいりたいと考えます。あわせて多様性の社会に生きる子どもたちの豊かな教育と学校づくりにも取り組んでまいりたいと思います。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和4年3月